

関東共晶会の最近の活動状況

共晶会関東支部では毎年11月から12月に支部総会を学士会館において開催しています。平成19年度はそのための幹事会（幹事：太田氏）を10月2日の夕刻に学士会館地下にある名古屋大学会議室で開催し、総会日時は11月24日（土）12：30～16：30、特別講演は「21世紀COEプログラム自然に学ぶ材料プロセシングの創成」のテーマで、名大の宮沢先生にお願いすることにしました。

支部総会には約20名の同窓生が出席し、開会の挨拶の後、直ちに宮沢先生の講演に移りました。先生は蓮の葉に乗っかっている球形の水滴にヒントを得て、撥水性の繊維を開発した例等を分かり易く紹介され、全員が興味深く聴講しました。また、質疑も活発に行われ、大変有意義な講演会となりました。名大のCOEは他大学と比較してもユニークでレベルが高い旨をお聞きし、同窓生としても大変嬉しく感じました。確かに材料開発のヒントを自然界に求めるのは合理的かつ効果的であり、今後の一つの方向性を示すものとして興味深いと思います。先日ドイツとの交流会に出席した折、ドイツでも自然から開発のヒントを得る活動が行われている旨を聞き、同じ先進国では同じような発想が行われていると感じました。

講演の後には懇親会に移り、先生を囲んで楽しい一時を過ごしました。懇談会では、各参加者が簡単な自己紹介および取り組んでいる仕事や社会活動を含めた近況を報告し、和やかな雰囲気の中で忌憚のない質問や意見が数多く出されて、時間が足りなくなる程でした。最後に記念撮影し、来年の再会を約して閉会となりました。ただ、残念なのは若い卒業生の参加が少ないことであり、次回以降は友人・知人を誘い合わせて、幅広い年齢で構成される40名程度の参加者を期待しています。

共晶会関東支部では支部総会の他に、入交前幹事が全学同窓会関東支部幹事会にも出席しており、名大ネットワーク作りや名大基金の募金と言った活動に参画しています。今後は共晶会の域を脱して全学活動にも積極的に関わり、名大の社会との連携強化にも貢献していきたいと考えています。

（共晶会関東支部長 竹之内朋夫）



第22回名大共晶会総会 2007年11月24日 学士会館

平成19年度 共晶会関西支部活動報告

平成19年度におきましては、去る平成20年3月8日に毎年恒例となった共晶会関西支部総会及び懇親会が開催されました。

今年度は坂名誉教授、浅野教授をお迎えして、S23～H17卒業の総勢31名の卒業生が集い、近況報告や、思い出話に花が咲きました。

毎年、名誉教授と現役教授の先生には、最近お思いになられることや、大学の近況等を紹介していただいておりますが、坂先生につきましては文部科学省先端研究施設共用イノベーション創出事業として、高性能電子顕微鏡を産業界でより広く利用していただくための産学連携活動内容をご紹介いただき、ご退官なされてからもますますご活躍されている姿に感銘を受けました。また、浅野先生につきましては、大学の独立行政法人化・大講座制への移行、地下鉄名城線の環状化、キャンパス建替え等、目まぐるしく変貌する大学の状況を紹介して頂き、懐かしさの中に新鮮さを感じた反面、少々寂しさを思わずにはいられませんでした。最後には総勢31名での「息吹おろし」の大合唱も、みな肩を組んでの大熱唱となりました。

本会は、さまざまな業種、幅広い年代が集っておりますが、みな気軽に打ち解け、ざっくばらんな雰囲気であることが良いところであり、人脈形成にも大変有効な会であると思っています。ただ、ひとつ気がかりと言えば若手の出席率でしょうか。今年度は20代が僅か3名であり、今後、参加者が増えることを期待しています。

平成20年度におきましても平成21年3月の第2土曜日に開催を予定しておりますので、本部の御配慮、ご支援の程を宜しくお願い致します。

(共晶会関西支部幹事 植木俊行)



平成19年度 関西共晶会 2008年3月8日 阪急ターミナルスクエア・17